

連載「道産木材データベース」

林産試験場では、樹木の生態・形態、木材の性質・用途および関連の文献情報等を樹種ごとに取りまとめたデータベースを制作中ですが、ホームページへの公開を前に、記事部分を順次本誌で紹介しています。
(担当：企画指導部普及課)

キハダ



- 名称 和名：キハダ
別名：シコロ（北海道・東北の方言）、キワダ
アイヌ語名：シケレペニ（sikerpe-ni）
漢字表記：黄肌
英名：Amur cork-tree
- 学名 *Phellodendron amurense* Ruprecht
- 分類 ミカン科キハダ属
- 分布 日本，サハリン，南千島，朝鮮半島，中国，アムール地方等

生態・形態 雌雄異株。陽樹で落葉性。キハダ属はアジア東部の温帯に分布する。日本では山地に生える。谷間など、湿気があり、土壌が厚く排水が良好な場所を好む。先駆性があり、山火事跡地などの開放地では鳥散布された種子により真っ先に更新する（カンバ類のような一斉林にはならない）。

高さ 25m，太さ 1m 近くになる。樹皮は淡黄灰色～淡褐色で、溝状に深く裂け、内部にコルク層を厚く発達させる。内皮は鮮やかな黄色。枝は太くかさ形の樹冠をつくる。小枝は暗褐色で二股に分岐し独特の枝ぶりをみせる。葉は、奇数羽状複葉で十字対生する。小葉は 2～6 対あり長さが 5～10cm，楕円形で先がとがる。葉の上(表)面は濃緑色，下(裏)面は粉がふいたように白色がかかる。花は長さ約 10cm の円錐花序で散房状。果実（みかん果）は球形で径約 1cm，5 分果からなり各 1 個の種子が入る。



樹皮，コルク層・内皮



枝ぶり



葉

キハダ（黄肌）の名は内皮の色から，種名 *amurense* は「アムール地方の」の意味。コルク質が薄く小葉の幅がやや広いものを変種ヒロハノキハダ（*var. sachalinense* Fr. schmidt, サハリン・北海道・本州に分布）に区分することがある。

蓄積や収穫量は少なく，流通する多くはシコロの名で北海道産。その北海道で優良材の産地とされるのは北東部の枝幸・雄武・北見など。葉はアゲハ・カラスアゲハ幼虫などの食草となる。

木材の性質 環孔材で道管が太く年輪界がはっきりしている。心材は灰緑色を帯びた黄褐色，辺材は黄白色で，心材・辺材の区別は明瞭である。肌目は粗い。やや軽軟で切削などの加工は容易だが，仕上がり面は不良とされる。アテが少なく素直な材質であるとの評もある。水湿に強い。

主な用途 太い道管が作り出す木目や特有の材色が活かされ，家具・工芸品・建築内装材・ドア・サッシなどに利用される。衝撃にあまり強くないので，大きな強度が要求される用途には不向きとされる。水湿に強いことから，一時期，枕木や流し場などの水回りによく使われた。クワ材家具等の代用材にされたこともある。

黄色の内皮は，黄檗（おうばく，黄柏）として知られ苦味健胃薬とされる。染料にもなる。アイヌの人たちは果実を食用にした。コルク層はほとんど使われない。

物理的性質

気乾比重	0.49
平均収縮率（接線方向）	0.25 %
（放射方向）	0.15 %

機械的性質

曲げヤング係数	80 tf/cm ²
曲げ強さ	800 kgf/cm ²
圧縮強さ	380 kgf/cm ²
せん断強さ	115 kgf/cm ²

加工的性質

人工乾燥の難易	比較的容易
割裂性	大
切削その他の加工性	中庸
表面仕上	不良
保存性	低い



木口面



板目面



柁目面

※木材の性質それぞれの意味については，連載1回目の2007年12月号で説明しています。

引用（木材の性質に関する数値等）

・日本の木材：（社）日本木材加工技術協会 1989

参考

- ・原色日本植物図鑑 木本編【I】：北村四郎・村田源 保育社 1971
- ・図説樹木学－落葉広葉樹編－：矢頭献一・岩田利治 朝倉書店 1966
- ・落葉広葉樹図譜 冬の樹木学：四手井綱英・斎藤新一郎 共立出版（株） 1978
- ・知里真志保著作集 別巻I 分類アイヌ語辞典 植物編・動物編：知里真志保 平凡社 1976
- ・外材と道産材－材質による比較（広葉樹・環孔材）：佐藤真由美 北海道立林産試験場 林産試だより 1992年7月号 <http://www.fpri.asahikawa.hokkaido.jp/rsdayo/26153024001.pdf>

（文責：石倉）